

Takasago Festival(大運動会)の開催について ～グループの「絆」を深化、家族へ「感謝の場」を～

高砂熱学工業株式会社
本社・東京都新宿区新宿6-27-30
会長兼社長・大内 厚、資本金13,134百万円

高砂熱学工業株式会社は、11月23日(祝日)、東京都墨田区の両国国技館において2回目となる大運動会(イベント名:Takasago Festival)を開催しました。本イベントは昨年からは始まり、部門・本社・本支店・グループ会社・協力会社との絆を深めることと、家族サービスの場を提供することを目的としています。今年は、昨年参加の本社、東京本店、国際事業統括本部、エンジニアリング事業部、協力会社やその家族に加え、横浜支店、関信越支店、国内全グループ会社が新たに参加するなど規模が拡大され、約1,400名(昨年からは約500名増)が参加するグループ挙げての大運動会となりました。

フェスティバル当日は、高原国内事業統括本部長が開会の挨拶を行った後、8チームごとに色分けされたハチマキとTシャツを着用し、大玉送りや綱引き、リレーなどの運動会では定番の競技のほか、二人一組でタオルを使いボールを運ぶサーフリレーや応援合戦など、チーム力を重視した競技に取組み、参加者は一致団結してチームの総合得点を競いました。

また子供向けの競技として宝探しや玉入れを行ったほか、小学生以下の児童が元力士(8名)に相撲で挑戦する「お相撲さんに挑戦」では大勢の方から、大相撲九州場所に劣らぬ大声援が送られました。このほか、特別ゲストに、千葉県船橋市を拠点として活動し数々の賞を受賞しているYOSAKOIソーランチーム「REDA 舞神楽」をお招きし、ゲストによる演舞を堪能するなど、盛りだくさんの内容となりました。



普段の作業服・スーツ姿から一転、おそろいのハチマキやTシャツを着用した参加者は、日常業務では会う機会が少ないメンバーとのコミュニケーションや、素のキャラクターなど意外

な一面も発見され、また大人たちから子供たち、子供たちから大人たちへと一日を通して声援も止むことなく、各競技に汗を流しました。

Takasago ブランドのもと、高砂熱学グループの社員および家族間に絆が共有され、チームが一丸となった姿や子供たちの笑顔に象徴されたように、フェスティバルの成功は参加者全員で創り上げたものであると実感された一日となりました。

以上

本件に関するお問い合わせ先
高砂熱学工業株式会社 経営企画部 広報室 鷺尾、土屋まで
Tel:03-6369-8215(直通)